

令和7年度 第2回 静岡市健康福祉審議会健康づくり専門分科会 会議録

- 1 日時 令和8年2月5日(木) 19:00~20:30
- 2 場所 静岡庁舎新館低層棟3階 茶木魚及びZOOMを利用したリモート会議形式
- 3 参加者 委員 会場出席(12名) 森本分科会長、中村委員、八木委員、稲垣委員
谷内委員、松崎委員、菅瀬委員、井出委員
豊島委員、渡邊委員、山本委員、平野委員
リモート(1名) 鈴鹿委員

事務局 保健福祉長寿局次長兼健康福祉部長 松下
健康福祉部参与兼健康づくり推進課長 長田
参事兼口腔保健支援センター所長
兼障害者歯科保健センター所長 小畑
総務係長 大勝
健診係長 竹田
保健指導係 佐藤、望月、柴山

関係課等 葵区役所健康支援課 課長 大里(リモート)
駿河区役所健康支援課 課長 松野
清水区役所健康支援課 課長 石上
高齢者福祉課 課長 杉田
こども家庭福祉課 課長 久保田

4 傍聴者 なし

5 議題

- (1) 健康爛漫計画(第3次) 取り組み状況について
健康爛漫計画推進作業部会の報告
令和4年度特定健康診査データ等を活用した静岡市民の健康状態について
特定健診データ等から分析した静岡市民の健康課題解決に向けた検討について
- (2) 関係機関との連携と協働(地域・職域連携)
- (3) 報告事項
保健福祉サービスの提供体制の改善について

6 会議内容

事務局 開会

(司会)

【議題】

森本議長 健康爛漫計画第3次の取り組み状況について、資料1の健康爛漫計画推進作業部会の報告を事務局からお願いします。

- 事務局 資料1より「健康爛漫計画推進作業部会にて委員からの意見を反映した取組の好事例を共有したことについて説明」
- 森本議長 ただいまの説明について質問がありましたら挙手をお願いします。
説明の中で、食についての取り組みがありましたが、食生活改善推進協議会の渡辺委員から何かご意見はありますか。
- 渡辺委員 若い方たちは、YouTube などよく見るかもしれませんが、高齢者はスマホ自体を持っていない、またパソコンも難しい状況で、高齢者に対してどのように啓発をしていくかが課題だと思います。コロナ禍から健康まつりなどもなくなってしまったところもあります。高齢者は、1年に1度健康まつりに行き楽しませてもらっていましたが、保健センターもなくなると、外に出ることが少なくなることもあるかと思います。私の家の周りでも、認知症の患者様が沢山いらっしゃいます。当協議会でも取り組んでいるシニアカフェというものがあり、近所の方が時間のある時に寄って集まり、困り事などおしゃべりをして、その場だけでも楽しんでいただくということをしております。また、高齢者は、食が偏っていることも多いです。年金生活で、バランスの良い食事といっても、食べられていないことが多いです。何を食べてきたか聞くと「朝はパンとお茶」と言う方も多く、「それに果物やヨーグルトも足してもらおうといいね」と伝えますが、生活を考えると、そこまではできず簡単な食事になってしまうという事が多いのが現状です。そのような高齢者世代にどのようにして、健康に過ごしていただくかも課題と思います。今、少子化で高齢者が多くなり健康長寿とも言われていますので、高齢者の方たちの課題も行政の方で考えていただきたいなと思っております。
- 事務局 貴重なご意見をありがとうございました。食生活改善推進協議会で実際に取り組まれている話も聞かせていただきました。今回は、若い方をターゲットにしたSNS等の取り組みに注目しましたが、高齢者の方々は、直接顔を合わせての支援がとても大事になると思います。引き続き、地域に出向いて顔を合わせて直接的な支援をしていくよう取り組んでいきたいと思っております。
- 森本議長 それでは、労働基準監督署の平野委員をお願いします。
- 平野委員 評価改善を意識した取組の事例3について、Line（ライン）で総表示回数が減っているにも関わらず、リンククリック数が増えた理由は、効果的な広告に変えたために増加したということですか？
- 事務局 令和5年度は通常のイラストでしたが、令和6年度はご覧いただいている、劇画タッチのイラストにしましたので、リンククリック率はかなり上がり2倍近くになりました。また、歯周病に関する周知が届きにくいと思っていた35歳～39歳ですが、5歳階層別でみたリンククリック数とリンククリック率結果では、35～39歳の年代で最も高く、非常に良い結果だったと思っています。
- 森本議長 歯と口の健康に関しては、専門家のご意見を賜りたく、静岡歯科医師会の松崎委員をお願いします。

松崎委員 動画については先ほどもご意見がありました、高齢者は、見たくとも見れないので知らないこともあると思います。しかし、今はスマホを使えば小さなお子さんから高齢者の方まで、広く YouTube など見られるので、とてもいい周知啓発だと思います。今までは、歯と口の健康週間などで、市民の方にチラシを配ったり、お口健康“歯っぴーふえあ”などのイベントを実施したりしていますが、どうしても一方的な案内になってしまっています。この報告で 35～39 歳の年代が、一番動画を見ていたというのを聞き、やはり一番周知が難しい年代、忙しくまた歯や健康についても、若年者であまり興味がない年代に向けて、歯科医師会でも何か周知ができればと思います。しかし、なかなか全年齢層への啓発は難しいと思いますので、様々な方向で、対面式また動画など、年齢に応じてやっていけたらと思います。

森本議長 ありがとうございます。それでは、次の議題に移りたいと思います。資料 2 令和 4 年度特定健康診査データなどを活用した静岡市民の健康状態について、特定健診データ等から分析した静岡市民の健康状態と、健康課題解決に向けた検討結果について事務局から説明をお願いします。

事務局 資料 2-1 より「令和 4 年度特定健診・特定保健指導に関わる健診等データをまとめた結果見えてきた地域の健康状態、また得られたデータを各関係課や関係機関と共有していった結果、特に保健福祉センター保健師と意見交換会を実施し、地区の健康課題とその課題解決のための対応策を検討した内容を報告」

森本議長 県と比較し、静岡市の健康状態が悪い面も見えてきましたが、区別にみると清水区の健康状態がよくないようですので、清水医師会の谷内委員、ご意見いただけたらと思います。

谷内委員 特に清水区の女性が、メタボ等数値が良くないということで、実際清水区と葵区の両方で診療をしていると、やはり清水区と葵区で患者さんの健康に対する意識が違うというのは感じています。私見ですが、葵区の特に駅に近い街中のクリニックに来る方は、健康に関する意識が高く薬に対する知識もご自分で調べて、こういった治療を希望するという意思をもって来られる方が、多い気がします。一方、地域によっては自分で調べて行動しようという意識が低い方もいるのかなという印象はありました。市の保健師が話し合い、対策を考えている状況だと思いますが、メタボや糖尿病などを放置すると、命に関わるといった、もっと強いメッセージを皆さんにお知らせしていきたいので、医師会の方からも伝えていけたらと思います。医師会にも糖腎防の会というのがあり、糖尿病の早期発見と治療に向けた取組もありますが、もっとそういった活動を強力にやっていかなくてはいけないと思います。

森本議長 ありがとうございます。薬剤師会の菅瀬委員をお願いします。

- 菅瀬委員 1日1時間以上の身体活動は、ジムに週何回か通うというのでは当てはまりませんし、なかなか難しいと思います。そもそも、通勤が車の場合、車に乗って降りて、仕事をして帰ってという形になり、平日の身体活動はほとんどなくなってしまいます。政令指定都市との比較のデータを見ると、電車通勤しやすい地区の方は、車通勤よりもよく歩いている、都会の人の方が歩く距離は、電車の乗り継ぎなども含めとても長く、また駅に向かうのも自転車を使ったり歩いたり、身体活動は多いと思います。通勤方法など生活の一部に取り入れれないとなかなか活動量を増やすことは難しいと思いデータを見させてもらいました。静岡は地域の特性上、なかなか運動の習慣をつけるのが難しいと感じますが、会社内で、動く時間があればいいなと思います。また、血圧や血糖値が上がったり腎機能が下がったりして、薬を使うとなると高額になるので、まずは生活習慣について、私たち薬局でも運動しましょうなどアピールしていかないといけないと思いました。
- 森本議長 ありがとうございます。では、看護協会の鈴鹿委員からご意見いただきたいと思います。
- 鈴鹿委員 データについてわかりやすく説明していただきました。中でも運動習慣や働き盛り世代へのアプローチが大切と感じました。先ほど資料1で報告された「職場における運動・スポーツの普及促進」において、仕事の時間内に体を動かす機会を作るというのは有効と感じました。この取組についてさらに打ち出し、企業が自主的に実施していき福利厚生につなげていくということが進むとよいと思います。
- 豊島委員 私たちは、20年前から生活習慣病予防のための活動をしていますが、清水区は特有の地域性があると思います。食べ物も、魚が捕れ、また農家も多い、味噌が好まれるなど。私たちは、健康まつりなどで、塩分チェックを実施し啓発していますが、今年度実施した時も「塩分を多く摂っていてもしょっぱいと感じない」という人が多かったということもありました。そのような啓発活動を行いながらもなかなか健康意識が上がらないという現状もありますが、各地区においては、でんでん体操を毎週3回集まってやっている団体があったりと、意識が高い人たちもいます。地区担当保健師さんが話し合った結果を、具体的な数値とともに私たちに示していただいて、わかりやすく伝えてほしいと思います。また、清水区は危機感を持っていて、腎臓病に関しても何回か研修会をやったり医師講演会を開いたりもしました。透析になったら、一生の病気であり、その前に予防していかななくてはいけないということを強く訴え、ご本人のみならず家族も危機感を覚えていただく機会を作るなど保健委員としても頑張っています。今回のデータは令和4年度の結果で、コロナ禍の影響もあったと思います。この数字が、5年度6年度7年度と、よくなっているといいなと希望を持ちたいと思います。このような結果を見るたびに、清水区はこのままではいけないと思い、保健委員としてもさら取り組みたいと思っています。今日の話聞いて、行政がいろいろな

アプローチしているのが見え、またそれが結果に出てきているということも分かりました。アプローチの一つ、歯科のYouTubeを私も見ましたが「歯医者に行かなくては」と強く思いました。動画を見た人の方が、行動に移すということもあるかと思います。ぜひ、今後も、市民に、健康課題を提示していただき、健康づくりのためのアプローチを様々しているということを伝えてほしいですし、私たち保健委員もそのような活動を取り入れていきたいと思っています。今日は貴重な報告をありがとうございます。

森本議長 ありがとうございます。清水区は医師の数でいうと、医師が少ないところです。清水駅前に大きな病院ができましたが、医師不足もあるようで、今後ますます医師のリクルートが出来るように頑張りたいと思います。他、ご意見いかがですか？なければ、次の議題に移りたいと思います。では、関係機関との連携と協働、地域職域連携について事務局からお願いします。

事務局 <資料3に基づき、関係機関との連携と共同のうち、地域職域連携の取り組みの現状について報告>

森本議長 ただいまの説明について静岡市自治会連合会中村様からご意見をお願いします。
中村委員 通勤の機会を利用して歩くという習慣、街中への通勤は電車であったり、また車でも駐車場が街中になく、駐車場から歩くといった状況もあり、それが葵区の結果につながっているのではないかと思います。また、食べ物については、様々なものが手に入りやすく、食べ物の情報も収集し、健康的なものを意識的に摂っている人も多いように感じます。

森本議長 ありがとうございます。それでは、健康保険組合連合会静岡連合会山本委員、ご意見をお願いします。

山本委員 今まで拝聴して、非常に素晴らしい分析ができているなと思っております。私としても引き続き協力できるところは協力させていただきたいと思います。静岡市の第3次健康爛漫計画と、第3期データヘルス計画を拝見しましたが、素晴らしい分析ができておりますので、今後ご協力できる場所がありましたらご協力したいと思いますので、よろしくをお願いします。

森本議長 ありがとうございます。それでは、市民委員の八木様、ご意見をお願いします。
八木委員 私が感じたことをお伝えさせていただきます。これまでのお話で“意識化”を進めたいということでしたが、これについて言いますと、例えば、健康診断を受け、結果が返ってきます。数値について要受診や良い悪いなどの結果が出ますが、その後「みなさん病院に行ってください。行きましたか？」で終わってしまいます。しかし、そこを 一歩進め、シミュレーションという形にするのがよいと思います。先ほど、動画についてお話がありましたが、シミュレーションで「このまま行くと、高血圧から、脳出血になりその後、こういう状態になる」というところ

を本人が自覚するよう、目に見えるようなもの、例えばイラスト1枚にして結果に添えたらどうかということを感じました。また、高齢者について、やはり直接話をする、「実はね、ここが痛い」など必ず健康の話が出てくると思います。なかなか難しいとは思いますが、高齢者にとっては話すことは健康に繋がる方法の一つと思われまますので、話す機会や場所を作っていくということがいいと感じました。

事務局 健診を受けた後の働きかけについて、貴重な意見をいただきありがとうございます。まずは健診を受けていただくということに苦慮している、そしてさらに健診後、健康状態を長く維持していただくために、どう働き掛けをしたらよいかということに苦慮しているという2点がありますが、今回は、健診後の働きかけについてのご意見をいただけたと思っています。以前、市でも健診を受けた方に、健康状態がどう変わっていくかというシミュレーションを結果として、お返しした事業を行ったことがありました。その際には、シミュレーションの示し方がイラストのような分かりやすいものでなかったこともあり、受け取ったご本人は、「今後の自分の健康状態、あなたはこの生活をしていたら、この先1年2年先こんな健康状態になってしまう、というようなものを突きつけられた」と感じ「こういったものは送って欲しくなかった」というご意見をいただいたこともあります。どういう形でアプローチするのがいいのか、手探りで進めているところですが、今日いただいたご意見を参考に、今後検討を進めていきたいと思っています。また、高齢者の方々へは、庁内の関係課でも、高齢者の介護予防的な視点での取り組みについて、既に連携また情報共有しておりますので、本日いただいたご意見を踏まえて引き続き進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

森本議長 ありがとうございます。では、新しく着任された民生委員児童委員協議会の稲垣委員からコメントをお願いします。

稲垣委員 民生委員ですので、高齢者との交流は多いですが、S型デイサービスにて「でんでん体操」を行ったり、そこに保健師や地域包括支援センターの社会福祉士など色々な方が来て、健康関係についてご指導いただいています。私は駿河区の中田学区ですが、高齢者の健康意識は高いと感じています。一番見えてこないのが、今働きに出ている20代から50代の方々ですが、この方たちの健康管理という点では、最後の議題で地域職域連携の推進について、(1)無関心層へのアプローチや(2)連携の継続、(3)取組の実行性というのは、若い方たちの健康を考えていく上でとても重要なことです。専門家の方が考えれば、いろいろなアイデアが出てくると思うので、連携もそうですが、若い方の健康の推進のためにできることを考えていただければ、これからもっと良くなるのではないかと思います。

森本議長 ありがとうございます。それでは、次に私立保育園長会、井出委員からご意見ををお願いします。

- 井出委員 私たちの立場ですと、乳幼児期のこどもとご家庭ということで、職域との繋がりの話はなかなか難しいですが、資料3の最後(1)無関心層へのアプローチについてというところで、乳幼児期の子どもたちは1歳半健診や3歳児健診がありますので、保護者の方と必ず保健福祉センターに出かけるようにと伝えていきます。今も既にされていることかもしれませんが、健診の機会に、子育ての悩みやメンタルヘルスにあわせて、保護者の方の健康についてもお話や相談ができれば、若い世代、子育て世代にもアプローチ出来ると感じました。
- 稲垣委員 今、少し話に出ましたが、無関心層へのアプローチという点での意見があります。社会人になってからは、とても忙しい生活になりますので、学生のうちに高校や大学で社会人としての心構えとして健康に関する大切さを学ぶことが出来たらよいと思います。会社に入ってから健康関連の話聞く機会が出てきた際には、仕事も大事ですが福利厚生として、そのような話もしっかり聞くよう社会人の心構えとして学生に伝えて行けたらと思いました。
- 森本議長 貴重なご意見ありがとうございます。私も大学に勤めておりますので、学生に伝えたいと思いました。
- 平野委員 事業者団体との連携という点で、健康づくり推進課の方に、説明会等の講師として来てもらい連携を図っており、ありがたく思っています。引き続き拡大をしていただければ感じております。1点、お聞きしたいのですが、企業においては、50人以上の規模の企業は産業医を選任しなければならないのですが、その協力機関として、地域産業保健センターがあります。資料3の3枚目のスライド、ポータルサイトから出典された図の職域の枠の中に、産業保健総合支援センターと地域産業保健センターがあります。こちらは、産業医や企業の保健師などが関わっている組織です。是非こういったところとも連携を図ってもらえると、産業医からの指導にもつながると思います。
- 事務局 貴重なご意見をありがとうございました。今年度、デジタルデバイスを活用した糖尿病発症予防事業の際には地域産保の保健師にも協力をいただき事業の案内をしてもらうなど繋がりを持っていますので、引き続き関わっていきたいと思います。
- 森本議長 はい、それでは議題3報告事項、事務局からの報告をお願いします。
- 事務局 ≪資料4に基づき保健福祉サービスの提供体制の改善について報告≫
- 事務局 保健福祉センターは統合されても、各地区に相談できる窓口を残しており、保健師もこれまでどおり、地区担当の保健師が活動していきます。様々な健康データや訪問活動等で得た情報に基づいて、地区の課題を洗い出し、健康施策を考えていくという活動は、引き続き変わりなく行っていきます。引越は5月のゴールデンウィークを予定しており、5月7日から体制が変わるということで、市民

の皆様への周知に向けて動いています。

森本議長 ありがとうございます。保健福祉センターがなくなるとなると、特に高齢者は電子申請や郵送での申請は大変かもしれませんので配慮もお願いします。では本日は貴重なご意見をありがとうございました。皆様から出された意見につきまして、今後の計画の推進に活かしていただきたいと思います。以上で、本日の議事は終了しますので、進行を事務局へ返します。

事務局（司会）森本会長、委員の皆様、ご審議いただきありがとうございました。

事務局（保健福祉長寿局次長兼健康福祉部長）本日はお忙しい中、また平日夜間でお疲れのところご出席いただき、活発にご議論いただきましてありがとうございます。今年度、2回にわたり開催しました分科会ですが、本日が今年の最後の会になります。閉会にあたり一言ご挨拶申し上げます。会長をはじめ委員の皆様方におかれましては健康爛漫計画の推進にあたり沢山のご意見をいただきました。まだ多くの課題を残しておりますが、皆様のお力添えにより、計画2年目を終えようとしているところです。ご案内のとおり、私たちの生活をとりまく環境は、コロナ禍を経て、また、世界の情勢を受けて大きく変化しています。社会の状況、環境の変化は、市民一人一人の健康に対する考え方にも影響を与えているのではないかと考えています。第3次健康爛漫計画の計画期間は、令和17年度までの12年間、長い期間ですが、この期間中にも、我々の取り巻く環境は、大きく変わっていくものと予想されます。社会の変化を捉え、より効果的に健康づくり施策を進めていくために、難しい課題ですが、本日繰り返し議論をいただきました、関心の高い市民の方だけでなく、必ずしもそうではない方々を巻き込んでいけるような働きかけが大切になっていくと考えております。委員の皆様方には、来年度も任期が続きますことから、先の見えない状況であっても、計画のPDCAサイクルを回し、計画を確実に前進していくために、引き続き本市の健康づくり施策に多角的、専門的な視点からご助言、ご協力を賜りますようお願いいたします。1年間ありがとうございました。

事務局（司会）健康づくり専門分科会の委員の任期は、令和9年3月31日までです。委員の皆様には、引き続き来年度も静岡市の健康づくり施策にご理解ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。なお、次年度も健康づくり専門分科会は2回の開催を予定しています。第1回を7月後半から8月上旬、第2回を令和9年1月下旬から2月上旬で計画しています。詳細の日程は決定次第、委員の皆様へお知らせします。以上を持ちまして、令和7年度第2回静岡市健康福祉審議会健康づくり専門分科会を閉会します。